



なきごえ



1987

5

大阪市
天王寺動物園協会

野生動物との出会い

小金沢正昭



先日、日光で行われた雪上観察会で参加していた小学生から、「なぜ山にシカがいるの?」と聞かれて、ハッとしました。私のようにサルやシカを観察することが仕事のひとつとなっている者にとって、山にサルやシカがいる

ことは、いつのまにか、ごく当たり前のことになっていました。ところが、その子にとっては、山にシカがいることはたいへんな驚きだったのでしょう。考えてみると、私も小学生のころは、サルやシカなど見たことがありませんでした。しいて言えば、動物園で見た程度でした。私たちは、普段、野生のシカやサルを見る機会はほとんどありません。なかには、日本にシカやサルがいることを知らない人もいることでしょう。反面、私たちは、テレビを通して、今までに見たこともないすばらしい自然の姿やさまざまな動物たちの生活を見ることができます。しかし、それはあくまでもテレビのなかの動物たちなのです。ところが、いつのまにか、私たちは、それだけですませてしまい、野生の動物たちを観察し、テレビでみたことを実際に体験し、自分のものにしてやうなどとは考えもなくなってきてはいないでしょうか。もちろん、そんなことは、自分たちの生活にとって大切なことではないと考える方もいらっしゃるでしょう。しかし、私たちが自然とのつきあい方、あるいは野生動物とのつきあい方を知らなかったた

めに、野生動物たちの生活をゆがめているようなことがおきているのです。

今、栃木県の日光地方では猿害が深刻な問題となっています。その原因のひとつに観光客による「餌やり」があると考えられています。この問題は、6、7年ぐらい前からはじまり、今では、路上にサルが出ていると観光客は持っているもの総てを車から放り投げるようにして餌を与えています。しかも、サルのほうも明らかにそれを期待して道路際に出るようになってきており、人を警戒する気配をまったく失っています。まさに善意による餌づけと人づけが同時に進行し、野生のサルたちの生活を狂わせてしまったのです。

ところが、今回の観察会でもそうでしたが、汗をかきかき山を歩いて、サルに出合った時、参加した人たちは餌をあげようなどとはしませんでした。それどころか、全員プロミナーや双眼鏡を通してみたサルたちに感動しているようでした。自分の足で歩き、野生動物と出合うことは、たとえそれがほんの数秒であっても、大変な感動をもたらすものです。そして、その感動が本当の意味での私たちと動物たちとのつきあいかたを学ぶ出発点になるのではないのでしょうか。私自身、野生の動物たちと最初に出合った時の感動は、今も忘れられません。丹沢で出合ったシカ、房総の林道で出合ったニホンザルたちなど。

そのことを考えると、安易な動物たちとの出会いやテレビをとおしての野生動物との「出会い」だけでは、決して彼らとのつきあいかたを学んだことにはならないと思います。

今回の観察会に参加した人たちにとって、山の中で出会ったシカやサルたちはきっと一生の思い出になることでしょう。そして、その感動が本当の意味での野生動物の保護につながると考えます。

(栃木県立博物館・学芸員)

Table with 2 columns: Title and Page Number. Includes 'なきごえ5月号もくじ' and '動物と私'.

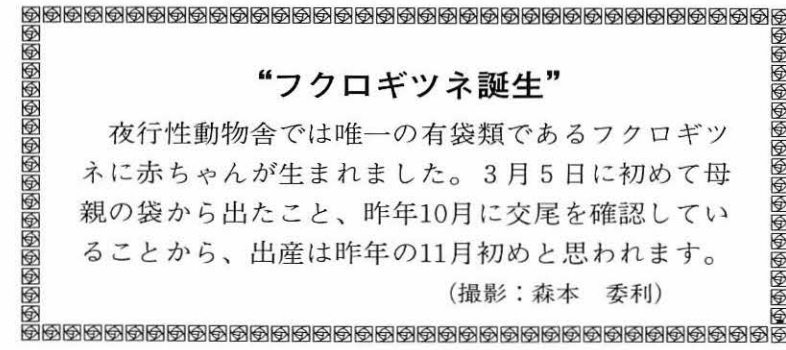
表紙の写真説明
“エジプトトゲオアガマ”(Uromastyx aegyptus)
北アフリカ等の乾燥地帯に生息するトカゲの仲間です。今はまだ全長45cm程ですが、成長すれば倍位になるそうです。顔つきに似ず性質はおとなしく、食物はレタスや花をあたえています。
(撮影：大野 尊信)



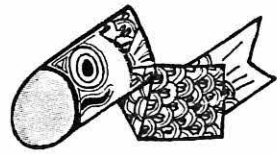
“フクロギツネ誕生”

夜行性動物舎では唯一の有袋類であるフクロギツネに赤ちゃんが生まれました。3月5日に初めて母親の袋から出たこと、昨年10月に交尾を確認していることから、出産は昨年11月初めと思われます。

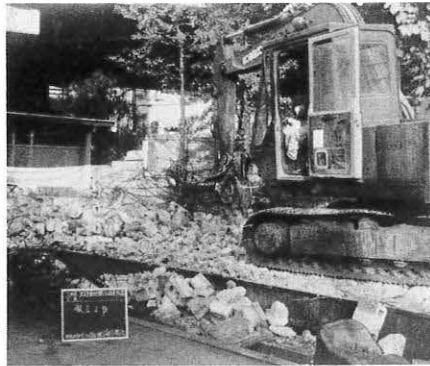
(撮影：森本 委利)



動物園グラフ



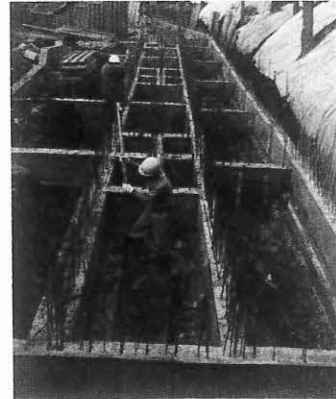
旧小獣舎



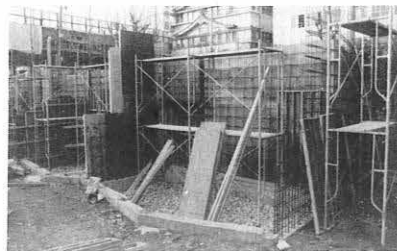
① 撤去工事がはじまりました。



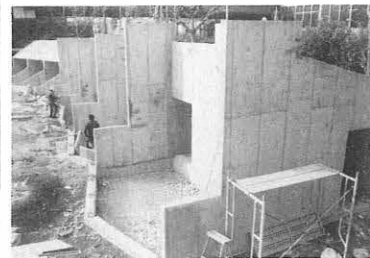
② 整地を行い位置出しを行いました。



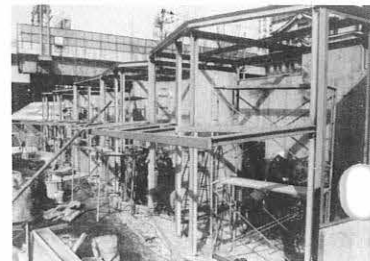
③ 基礎コンクリートを打ち終わりました。



④ 躯体の配筋を行い型枠をとりつけました。



⑤ 躯体のコンクリートが立ち上がりました。



⑥ 外枠の鉄骨工事で全様がつかめるようになりました。

3・4月の動物園日記

- 3 / 5. ボブキャットのメスが耳介血腫をおこしたため治療を始めました。
フクロギツネの子がはじめて母親の袋から出ました。
- 3 / 6. キジ用の孵卵器の運転を開始しました。
レアが交尾しました。
- 3 / 9. 3月の3日に生まれたフランソワルトンの子供を母親と共に屋外運動場にはじめて放飼しました。
エミュウの自然抱卵中の2卵をとり上げ検卵を行ないましたが2卵とも無精卵でした。

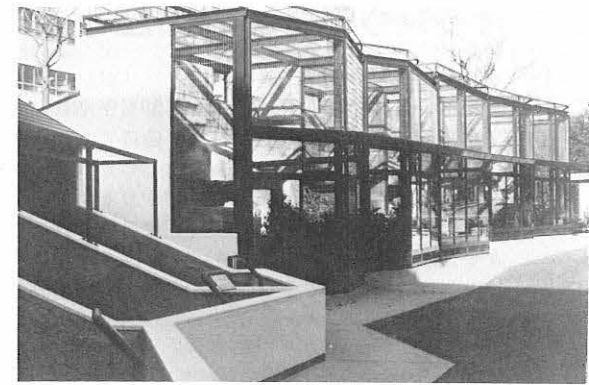
- 3 / 10. ラマのオスがかなりやせてきたため、治療をはじめました。
フクロギツネの赤ちゃんが連日袋より出て元気に動きまわっています。
- 3 / 11. ヒョウが交尾しました。
- 3 / 12. シマウマ舎とヒグマ舎の擬岩改修が完了しました。
マレーグマが1頭生まれました。
- 3 / 14. 昨日生まれたマレーグマの赤ちゃんは母親が初産で扱い方がわからなかったせいか、残念なことに圧死しました。
- 3 / 15. 第23回動物のお話とスライドの会「草食の動物」を開催しました。

小形ネコ舎ができるまで

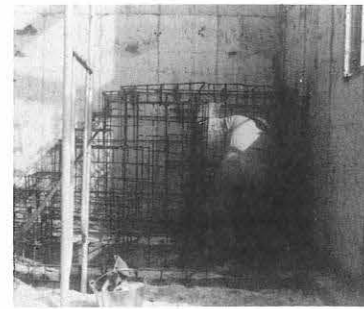
昨年11月中旬からはじまった小形ネコ舎の工事が4ヶ月ののち完成し4月に一般公開しました。

工事の経過を写真で追ってみましょう。

(撮影：中川 哲男)



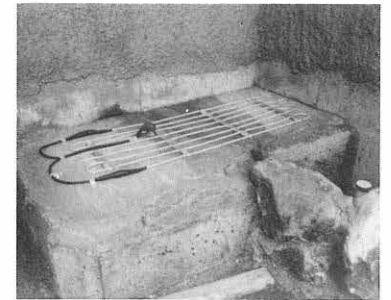
新しい小形ネコ舎



⑦ 放飼場の擬岩の配筋です。



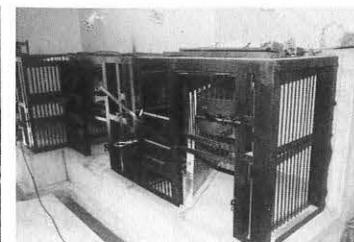
⑧ 擬岩のモルタル吹付が終わりました。



⑨ ビット式放飼場のフロアヒーターの埋設です。



⑩ 寝室内のステンレスシャッターと水飲器。



⑪ 治療用の予備ケージとスクイズケージ。



⑫ キーパー通路の壁塗装も終り完成もまもなくです。

- 3 / 16. キーウィ、ハリモグラ、ハリネズミの体重測定を行ないました。
- 3 / 17. シベリアオオカミが5頭生まれました。
- 3 / 19. パーパリーシブが2頭生まれました。
- 3 / 20. カバが交尾しました。
- 3 / 21. 新築の小形ネコ舎に移動する予定の小形ネコ類の内部寄生虫の一斉駆除をはじめました。
- 3 / 22. カナダガンが5卵産卵しているのを確認しました。
- 3 / 23. ポアコンストリクターが5頭入園しました。
- 3 / 24. ダチョウのメスが2羽入園しました。
フクロギツネの子は母親の育児のうに入らずに過ごしているようです。

- 3 / 25. ホッキョクグマの検便を行ないました。
- 3 / 28. マントビビが1頭生まれました。
- 3 / 29. ニホンモグラを1頭保護しました。
ホオカザリヅルの1羽が同居のもう1羽を追うため、追われている方を隣室に移しました。
- 3 / 30. 小形ネコ類5種とジャコウネコ3種を新築された小形ネコ舎に移しました。
- 3 / 31. ゾウの体重計の点検調整を行ないました。
- 4 / 1. ニホンジカのオスの左の角が落ちました。
右の角は4月3日に落ちました。
小形ネコ舎がオープンしました。
- 4 / 3. シマスカンクが6頭生まれました。

オランウータンの出産と人工哺育(下)

§ 人工哺育の開始

出産から50時間を経過した4月29日午前10時、サツキを麻酔して赤ん坊をとりあげることができました。最初の出産とちがい、今回はしっかりと我が子を抱きしめていたサツキから無理やり奪い取るのは、私としても断腸の思いでしたが、授乳の確認がとれない以上しかたがありません。

サツキを麻酔して分ったのですが、乳房の張りも少く、またミルクは全く泌乳していませんでした。

さて私の手に渡された赤ちゃんは、類人猿舎に運びこまれた人間の未熟児用哺育器の中に早速収容されました。哺育器内は25~29℃に温度を保ち、湿度は60~80%位に調節しました。哺育器内に移す前に体重を測りましたが丁度2000g。生まれて50時間、何も飲んでいなかったのですから、生時の体重は、2200g近くあったのではないのでしょうか。

それにしても赤ちゃんは元気旺盛で、不安だらけの私にとっては唯一の救いでした。ミルクを与える前に白湯(さゆ)を与えましたが、口を湿らせる程度でした。

午後から私は哺育器の側につきっきりで、こまめにミルクを飲ませることにしました。ミルクは人間の赤ちゃん用の粉乳を用いしましたが、最



白湯を与える筆者(生後2日目)

初は10ccほどを飲ませるのも一苦労でした。私自身、二児の父親なのですが、育児はほとんどまかせっきりだったため、この時ほど育児を経験していたらなあと残念に思ったことはありませんでした。それでも夜を徹して哺乳したおかげで、この人工哺育開始当日は160mlのミルクを飲ませることができました。

2日目からは体の諸計測をした後、約2時間ごとにミルクを飲ませました。本当はもっと間隔をあげたいのですが、ミルクをほしがって泣きだすため、それが限度のようでした。ミルクはこの日から一気に飲んでくれるようになり、量は1回に40mlと増えました。しかし昨日から一度も排便をせず、いろいろ試みましたが失敗に終わったため、夕方、洗腸をしました。排便の量は少量でしたが、不安が一つ解消しました。とにかくしばらくは徹夜で世話をしなければいけないので、私と大野尊信係員が交替で泊りこむことにしました。

生後6日目までに体重は1900gまで減少しましたが、その後は1日平均30gの割合で増加しました。

哺乳量も1回の哺乳量が40から60、100ccと1ヵ月の間に順調に増加し、1日の総量は生後3日目の290ccが生後35日目で倍増の600ccになりました。

§ 生後3ヵ月までの哺育経過

体重の哺乳量の変化はグラフに示すとおりで、体重は生後65日目で倍増の4000g、そして90日目では4900と増加の一途でした。一方、哺乳量は65日目までは順調に増えました。当初1日8回与えていたミルクも、生後4日目からは7回、10日目からは6回、24日目からは5回と減らし、62日目からは4回の哺乳回数にしました。そのため、必然的に1回に飲む哺乳量が増えるわけで、1回の哺乳量としては最高240mlも飲んだことがありましたが、これだけ飲むとさすがにおなか

が張って苦しそうなため、その後は1回の哺乳量は200mlまでに制限しました。哺乳回数を4回にした62日以降は、1日の総哺乳量は900~800mlと横ばいからやや減少気味になりました。哺乳量が減っても体重は順調に増えていくから不思議なものです。

人工哺育での苦労はミルクを調乳し、温めて飲ませることもさることながら、排泄物の処理もなかなか大変です。常時オムツをしていますが、排尿が1日に6~12回、排便も多い時は8回もしますから、オムツの交換も1日10回ほどになります。昼間は布オムツをしており、夜間のみ紙オムツを用いました。

ミルクには哺育開始時からビオフェルミンを混ぜていましたが、下痢、便秘もなく健康に育ってきました。ただ生時から臍ヘルニア気味で突出がだんだんひどくなってきたため、生後18日目から治療を始めました。約1ヵ月後にはほぼ完治しました。

体温は1日2回測定しましたが、この間にたいした発熱もなく、37.1~37.7℃でした。

なお5月中旬から、夜間の世話は芝野利夫係員と葭谷文彦係員が手伝いに加わってくれるようになり、4人が交替で泊りこむことで仕事も比較的余裕が生まれてきそうです。

§ 離乳までの経過

たいした病気もなく生後3ヵ月をすぎた97日目、朝の便が珍しく下痢気味でした。一過性の下痢は時にあったので気にしなかったのですが、翌日は6回も下痢便をするに及んで少し心配になってきました。



行水中(生後80日目)

しかし哺乳も元気も良好で、すぐに回復するだろうと楽観していたのが失敗で、その翌日になっても下痢がとまらず、とうとう夕方からドクター・ストップでミルクを飲ませるのを中止することになりました。ミルクに代わって水分の吸収がよく胃腸に負担をかけない医療用イオン飲料水だけを与えることにしました。脱水を予防しながら胃腸の回復を待つという方法ですが、下痢が始まって4日目になってもまだ下痢が治らず、とうとう投薬を開始することになりました。3種類の下痢止めの薬を与えて2



初めて与えるリンゴジュース(生後127日目)

日目、やっと回復の兆しが見えだし、3日目から乳糖の少ない粉ミルクを与えることができるようになりました。この下痢のため、当初考えていた離乳開始時期も少し遅らせざるを得なくなりました。生後127日目、まだ乳歯は生えていませんが、離乳食をこの日から与え始めました。最初はリンゴジュースやバナナのつぶしたものを主に与え、日が経つにつれてオレンジジュースや市販のベビーフードなどメニューも豊富になってきました。当初はなじめなかった離乳食も、生後132日に左下顎の門歯、133

日目に右下顎の門歯が萌出して以来、その食べる量は確実に増加し、一方、哺乳量はそれにつれて減少しました。生後173日目からは哺乳は1日2回になり、200日目からは1回になりました。離乳食もパンやリンゴ、白身の魚、オカユなど好き嫌いせずになんでもよく食べてくれました。

§ 新しい展示室

人工哺育を始めて以来、屋内の哺育器の中ばかりで公開されていなかったのですが、この赤ちゃんの

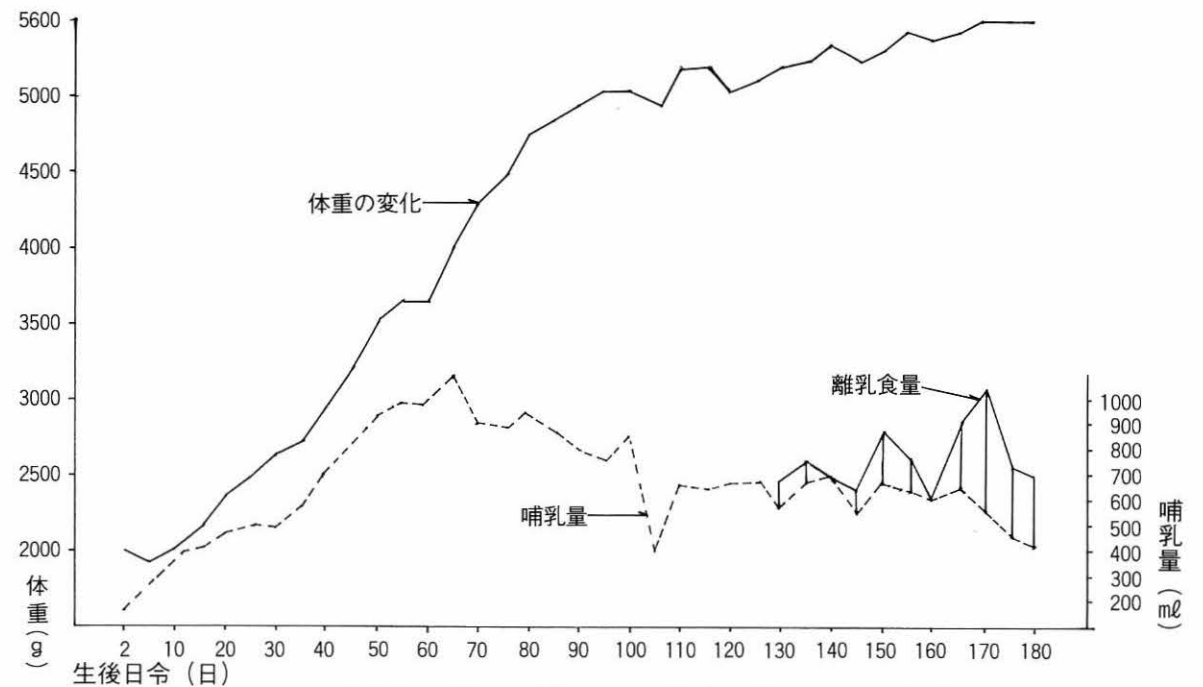


新しい展示室で遊ぶサブ(生後191日目)

ために特別の展示室が類人猿舎の一角に完成し、10月19日から一般公開しました。前面がガラス張りのため、中で遊ぶようすや、哺乳、食事風景が手にとるように見えるため、入園者の人気が集まっています。また一般公開とともに、この赤ちゃんの愛称を募集したところ、たくさんの方の応募の中から「サブ」と決まりました。

「なきごえ」にこの原稿が載る頃には、サブはめでたく1才の誕生日を迎えていると思いますが、これからも健康でのびのびと育ってほしいものです。

(飼育課:大東 孝司)



72年間の小形哺乳動物収容施設の変遷

4月1日、小形ネコ舎が完成し、一般公開が始まりました。この新しい動物舎はネコ科の動物を収容する5室とジャコウネコ科のための3室からなっています。従来の暗いイメージの元凶であった鉄格子、金網を取り払い、ネコ科の方は前面をガラス張りにして間近で動物が見られるようにし、ジャコウネコ科の方は空堀式で上から覗くようになっています。共にコンクリート床面が土に変わったのを始め、植栽、擬岩、保温設備にも工夫をこらし、魅力たっぷりの動物舎へと変身しています。総面積207㎡のこの小型ネコ舎にはオオヤマネコ、ボブキャット、カラカル、ジャングルキャット、ベンガルヤマネコ、コジャコウネコ、マレージャコウネコ、ハクビシンの8種が展示されています。

ところで、ゾウやライオン、キリンに比べて小形の哺乳動物というのは特にすごい人気はありません。子供たちが選んだ動物人気投票の過去の結果を調べても、タヌキやキツネ、ヤマアラシ、ジャコウネコ、アライグマ、ヤマネコなどはベスト10には一度も顔を出していません。しかしこれらの小形の哺乳動物というのは動物園を構成していくうえで欠くことのできない動物であり、玄人受けのする動物といえるのではないのでしょうか。個々の形態、生態をみてもなかなかおもしろい動物ばかりであり、人気が今一つもりあがらなかったのも施設、展示に一工夫たりなかったためかもしれません。

さてこの新しい小形哺乳動物舎の完成を機に、この72年間の天王寺動物園における小形哺乳動物の収容施設の変遷をたどってみることにしました。

§ 開園時から戦時中にかけての小獣舎

大正4年1月1日の開園当時にはヤマアラシ、アナグマ、テン、タヌキ、キツネなどが飼育されていましたが、その収容施設については詳細は不明です。位置は現在の小鳥の家あたりにあったようで、南側にクマ舎、北側に走鳥舎が配置されていました。開園前の大正3年12月25日付『大阪朝日新聞』の900字にも及ぶ新設動物園紹介記事の中には、次のような説明があります。

『……中略……つぎには鷲、鷹などの猛禽類、火喰鳥、小獣、他の小獣檻、皆一様にコンクリート鉄柵の単調を彩るために、一々樹木を配したのは大いによい。……後略』

小獣という言葉は一般の方にはなじみのないものですが、その字句のとおり小形哺乳類を意味しています。小獣、あるいは小獣檻という呼び方はこの開園時にすでに定着しているようです。以後72年間にわたって使われてきた小獣という言葉も、今回小形ネコ舎建設のために小獣舎が取りこわされた現

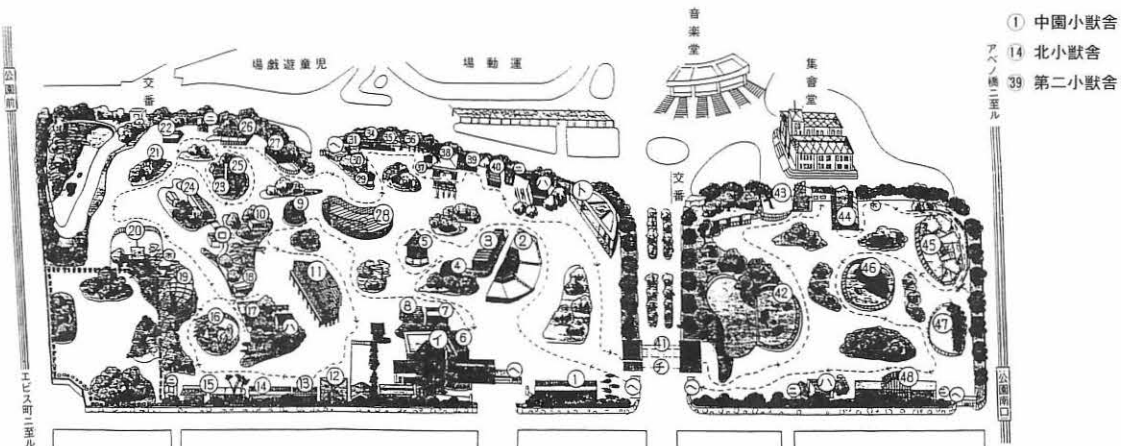


アライグマ (昭和9年発行、大阪動物園アルバムより)

在、死語になったといえるでしょう。

昭和7、8年の第一次拡張計画で動物園の南側が園域にとり入れられた折、小獣舎が新たに建てられました。これは今の北園展示館付近にあったもので建物面積17坪(56㎡)、中園小獣舎と呼ばれていました。

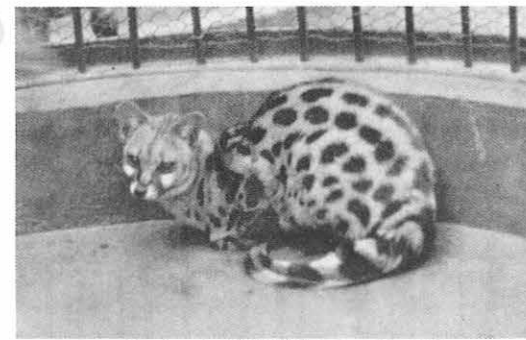
鉄格子、金網張りのこの動物舎は8室に分けられており、マレージャコウネコ、ビントロング、アナグマ、ゾリラ、タヌキ、アライグマ、ハナグマ、レッ



昭和10年当時の園内図

サーバングなどが飼育されていました。一方、開園時に設けられていた小獣舎、(別名 北小獣舎)はかなり改修されたく、この時点では13.5坪(45㎡)の面積があり、赤レンガ作りの鉄格子、金網張りの6室に分かれた動物舎となっており、その後、これはオオカミ、ジャッカル、キツネ、イノシシなどを収容する中獣舎という名称に変わります。

ところでこの昭和10~15年当時の園内図を見ると、もう1ヵ所、小獣舎という名称が見られます。現在の動物慰霊碑あたりにあった建物で、第二小獣舎と呼ばれ面積4坪、4室に分かれていてジェネット、スナドリネコ、ハイイロギツネなどが収容されていました。

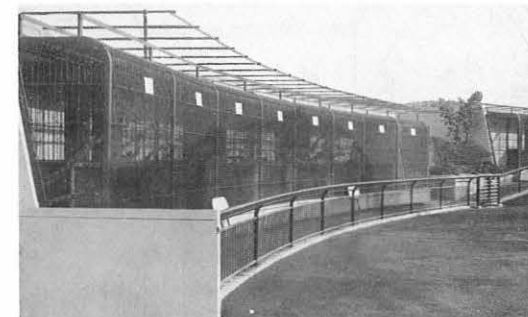


ジェネット (大阪動物園アルバムより)

いずれの動物舎も鉄格子、金網張りで床面はコンクリート、寝室は極端に狭く、暖房設備もちろん設けられていませんでした。

§ 戦後の小獣舎

戦争のために鉄材供出のあおりを受けて、園内の人止柵は全て鉄製のものから木製に変わりました。動物舎の方は動物脱出防止を考えてか、その供出は免れましたが、損傷、老朽化はひどかったようです。終戦時にはアライグマ、タヌキ、キツネ、ハクビシン、マングース、ヤマネコ類が収容されていましたが補修の金網にもこと欠くありきまで、飼料不足も加えて動物園は艱難辛苦の時代でした。



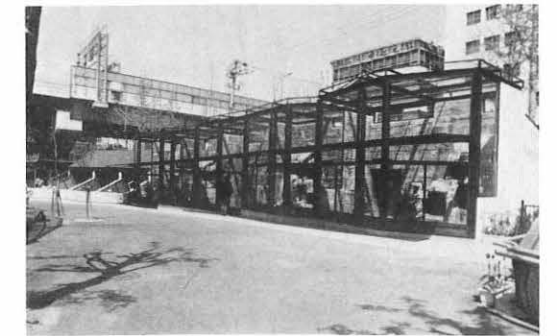
昭和43年に完成した小獣舎

老朽化した中園小獣舎が改修されたのは昭和32年のことですが、管理通路もなく寝室も狭いため、安全面、衛生面でも旧態依然のままでした。

昭和43年、動物園の西端が高速道路の建設用地となり、この小獣舎も移動を余儀なくされました。昭和43年12月、鉄筋コンクリート造りの小獣舎がトラ舎の西側に建設されました。総面積20室 296㎡、もあるこの小獣舎は、従来のものに比べ管理通路や寝室も整備されました。14室は従来どおり鉄格子、金網張りでしたが、6室は新しい試みとして、ピット方式(空堀にして上から動物をながめる方式)をとりました。ここにはヤマアラシやパカ、アグーチ、スカンク、アナグマなど跳躍力やよじ登る力の弱い動物を展示し、金網ごしでない動物を見てもらえるようにしました。

§ 新しい動物舎へ

20年近い歳月が流れ、老朽化著しい小獣舎の建て替え計画が昭和60年に決定しました。寝室が各室に1室しかないこと、保温設備が整っていないこと、暗くて作業しにくいことなどに加え、コンクリートむき出しの場所で動物がまるで牢屋の囚人のようだという悪評を打ち破るためにも、最新の設備を施し、環境を整えた、見やすい動物舎作りが急がれました。プロジェクトチームを編成し、度重なる会議を開き、擬岩の色や中に植える樹種の選定などの細部にわたるまで検討を加えました。



新しく完成した小形ネコ舎

小形ネコ類をガラス越しに展示して見せるという方法は、日本では初めてのケースと思われます。この小形ネコ舎の隣には、今年度中にヒョウ、ピューマ、ジャガーを収容する中形ネコ舎の建設が予定されており、これで従来のトラ、ライオン舎と一つにつながったネコ科ゾーンが形成されるわけです。動物の生息環境にあった、しかも入園者に見やすく、管理もしやすい理想的な動物舎作りに、これからますます磨きかけられていくことでしょう。

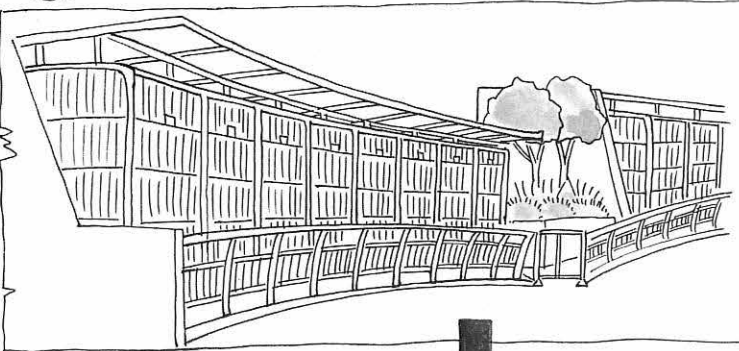
(飼育課:宮下 実)

ケンちゃんのおみやげ動物園

マンガ 松葉 健

旧小形ネコ舎

天王寺動物園の北の立端にある小形ネコ舎が新築され4月1日から一般公開になりました。3月30日、仮り住まいしていた動物たちが新居へ帰ってきました。



新築の小形ネコ舎

新居はガラス張り、明るく、床はコンクリートから土に替わり植木があちちとした高級住宅です。動物たちは新しい住み家にならされるとキョトンとしてニオイをかぎ回っていました。自分のニオイがないと、おちつかないそうです。「なれてくると快適な暮らしになるよ」とケンちゃんは声をかけてやりました。



コンクリートの床にフロアヒーター

飼育担当の松下さん



動物園ニュース

§ 出産ラッシュが始まる!!

3月に入り、出産ラッシュが始まりました。まず、3日にフランスワルトンの赤ちゃんが生まれました。特有の黄金色の体毛が目立つかわいい赤ちゃんです。母親にしっかりしがみついている姿はたいへんほほえましく、人気を集めています。当園では2年前の6月に生まれた長女の誕生に続く2回目の出産です。今回もメスのようで、心配していた長女のイタズラもなく順調に成育しています。



2月頃から母親の袋から時々顔をのぞかせていたフクロギツネの赤ちゃんは5日に初めて母親の袋から出ているのが確認されました。残念ながら夜行性動物舎の隔離舎に収容されていますので、お目見えはしばらく先になるでしょう。(3ページ写真参照)

17日にはシベリアオオカミが5頭生まれました。1頭は3日目に死亡しましたが、残る4頭は順調に成育しています。父親は、昨年11月に来園したもので



ですが、母親は熊本動物園から借り受けているもので、一昨年

10月に続いて2度目の出産です。

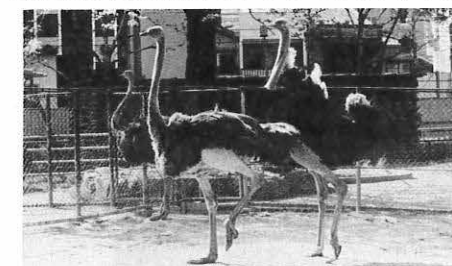
今年は少し遅れていたバーバリシープも19日、23日と相次いで2頭ずつ生まれています。

鳥類では、エミユウのヒナが3月26日に人工ふ化し、順調に成育しています。キジ類の産卵も始まっていますので、次々とヒナ誕生のニュースをお知らせできるでしょう。

§ 新着動物

ボアコンストラクター 5頭が札幌市円山動物園の

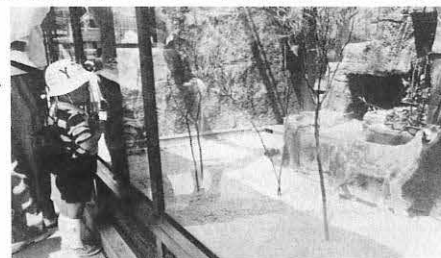
ご好意で来園しました。このヘビは円山動物園で1975年3月に生まれた10頭のうちの5頭です。成長すれば3m近くになる大きなヘビですが、来園したものはまだ全長50cmぐらいの小ヘビです。早速爬虫類舎に展示したのでご覧下さい。また、3月24日にダチョウ



のメス2羽が来園しました。一昨年の7月にメスが死亡して以来オス1羽となっていましたので、久々のメスの来園です。来園したメスは、推定4才ぐらいですが、来園翌日の25日には早々と産卵しましたので、今後の繁殖が楽しみです。

§ 小形ネコ舎完成

昨年11月から建設を進めていた小形ネコ舎が完成し、4月1日から一般公開されました。総工費5800万円、総面積 207㎡の新しい動物舎となりました。西側3室はペット式のオープンケージを採用し、コジャコウネコなどジャコウネコ類3種7点を展示しています。東側5室は動物を真近に見ることができるように当園としては初めてガラスを採用し、ジャングルキャットなどの小形ネコ類5種8点を収容しています。擬岩や壁の色もより自然に近いように各動物舎で変化をもたせ、床も従来のコンクリートから土に変え多くの植物を植え込みました。(動物園グラフ参照)



§ 動物園駐車場の廃止

天王寺公園の地下駐車場の建設に伴い、当園の駐車場と東門が3月31日をもって廃止されました。

駐車場は昭和32年に、東門は昭和41年10月に開設されたもので、それぞれ長い歴史に終止符が打たれました。今後、乗用車でお越しの方は天王寺公園の地下駐車場(5月完成予定)をご利用下さい。

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。7月までの休園日は下記のとおりです。

5月18日(月)、6月15日(月)、7月20日(月)

開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。

現在の飼育動物数

(1987年3月31日現在)

哺乳類	13目	106種	416点
鳥類	21目	186種	590点
は虫類	3目	32種	60点
合計	37目	324種	1,066点

ゆとり満喫、信頼のカード。



ショッピングから海外旅行まで、
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード (キップス) KIPS

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの
ご利用にはいろいろな特典が。

近鉄百貨店 各店クレジットセンターへ
お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ
●アベノ店7階 ●上本町店10階 ●東大阪店本館 ●奈良店4階 ●西京都店1階
(京都ファミリー)

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光 / 監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか? 動物園での世話
の仕方は? 仲間は何? など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしといかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしと いかた

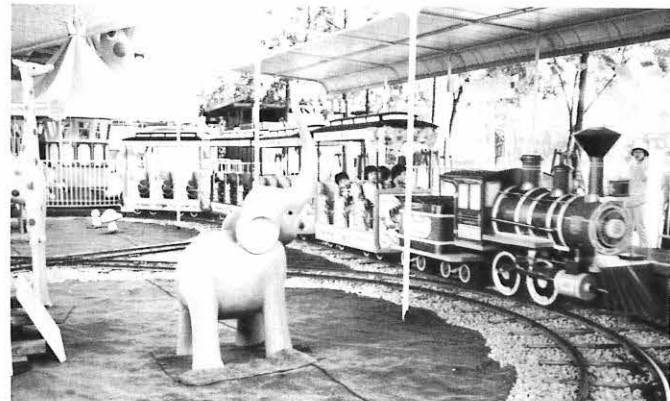
野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきもの くらしと いかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 **ひかりのくに株式会社** 本社 / 〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

いま、フィルムは 頭脳をもった。



高画質時代をリードする

はるかに美しく

フジカラー SUPER HR

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対 象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸 出 料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申 込 先/当協会まで、電話かハガキで
お申し込み下さい。

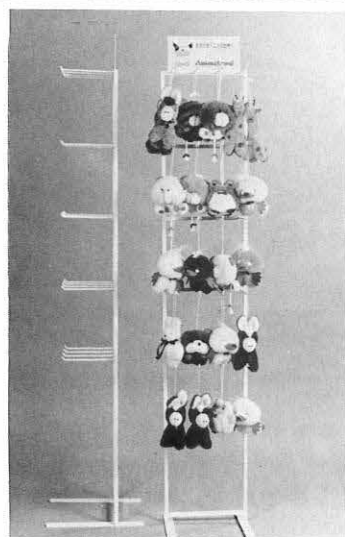
動物観察の手引に

天王寺動物園 ガイドブック

のご購読をおすすめします。
(1冊¥450)園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶白山町6-74 ☎(06)771-0201

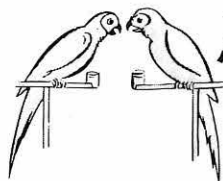


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

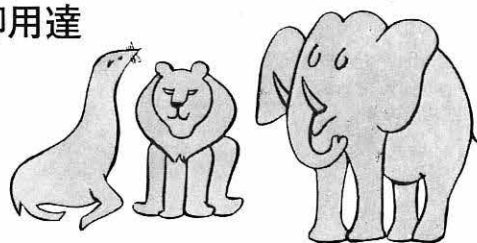
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヶ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

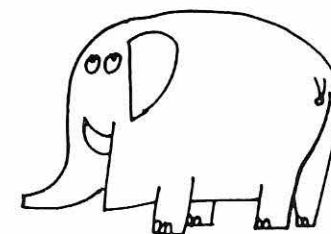
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内

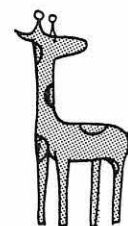


南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は… 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

もっとおいしく もっと元気に！……雪印



雪印ヨーグルト 130g・250g

おなじみの果肉入りヨーグルト

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。

ホワイトを基調にしたシンプルなデザインで、ヨーグルトのさわやかさにもピッタリです。

野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設



お申込み、お問合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 昭和62年5月10日発行(毎月1回10日発行)第23巻 第5号 (通巻261号)

編集/大阪市天王寺動物園
発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗
印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 大阪 (06) 771-0201
振替口座 大阪 37823

編集委員 (土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/前田豊彦/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭)
(森本泰利/大野尊信/山下奉之/野口秀高/早川 篤/数野幸司/堀 弘/大川光雄)